

○国土交通省告示第七百四十五号

建築士法（昭和二十五年法律第二百二号）第四条第二項第一号の規定に基づき、建築士法第四条第二項第一号の国土交通大臣の指定する建築に関する科目を定める件を次のように定める。

令和元年十一月一日

国土交通大臣 赤羽 一嘉

建築士法第四条第二項第一号の国土交通大臣の指定する建築に関する科目を定める件

第一 建築士法第四条第二項第一号の国土交通大臣の指定する建築に関する科目は、次の各号のいずれかに定めるものとする。

一 次のイからイまでに定める講義又は演習（次号において「必修講義等」という。）の全てを履修することにより修得する総単位数が六十単位以上であるもの

イ 七単位以上の建築設計製図に関する講義又は演習（建物（土地に定着する工作物のうち屋根及び柱又は壁を有するもの（これに類する構造のものを含む。）をいう。以下この号において同じ。）の建築工事の実施のために必要な図面を作成することができるようにするための講義又は演習であって、建物の形態、建築材料及び構造を決め、これらを図面に表示することを標準的な内容とするものをいう。）

ロ 七単位以上の建築計画に関する講義又は演習（空間における建物の配置に係る計画を作成す

る際に考慮することが必要な人間の行動及び意識並びに建物及びその周辺の空間のあり方が人間の行動及び意識に与える作用に関することを標準的な内容とするものをいう。）

ハ 二単位以上の建築環境工学に関する講義又は演習（建物の室内における光、音、空気、温度その他これらに類する環境が人の健康に与える影響に関することを標準的な内容とするものをいう。）

ニ 二単位以上の建築設備に関する講義又は演習（建物の快適な室内環境の形成及び維持のために必要な換気、暖房及び冷房の設備、建物の安全性を確保するために必要な消火及び排煙の設備、これらの設備を運転するために必要な電気及びガスの設備その他これらに類する設備に関することを標準的な内容とするものをいう。）

ホ 四単位以上の構造力学に関する講義又は演習（建築物の応力又は変形を求める構造計算の基礎理論に関することを標準的な内容とするものをいう。）

ヘ 三単位以上の建築一般構造に関する講義又は演習（建築物の一般的な構造に関することを標準的な内容とするものをいう。）

ト 二単位以上の建築材料に関する講義又は演習（建築物に使用される木材、鋼材、コンクリートその他これらに類する材料に関することを標準的な内容とするものをいう。）

チ 二単位以上の建築生産に関する講義又は演習（建物の企画、設計、工事施工その他これらに

類する建築物が生産される過程に関することを標準的な内容とするものをいう。)

リ 一単位以上の建築法規に関する講義又は演習（建築物に関する基準を定めた法令及び建築行政に関することを標準的な内容とするものをいう。）

二 必修講義等の全てを履修することにより修得する総単位数が六十単位未満である場合において、当該必修講義等の履修により修得する総単位数と当該必修講義等以外の建築に関する一又は複数の講義又は演習の履修により修得する総単位数の合計が六十単位以上となるもの

第二 第一に規定する科目の単位の計算方法は、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）による大学を卒業した者については大学設置基準（昭和三十一年文部省令第二十八号）又は専門職大学設置基準（平成二十九年文部科学省令第三十三号）の規定の例によるものとし、旧大学令（大正七年勅令第三百八十八号）による大学を卒業した者については国土交通大臣が別に定めるものとする。

附 則

この告示は、建築士法の一部を改正する法律（平成三十年法律第九十三号）の施行の日（令和二年三月一日）から施行する。